

台風11号に対する農作物の技術対策

平成21年8月31日
福島県いわき農林事務所

平成21年8月31日11時15分現在、台風11号は伊豆諸島近海を北上しており、西よりの進路をとった場合、上陸する可能性もあります。今後も勢力を保ちながら北上し、東北地方には31日夜遅くから9月1日の朝にかけて最も接近する見込みです。東北太平洋側では、暴風、高波、大雨に警戒してください。

【今後の気象予想】

風

31日夕方から9月1日にかけて予想される最大風速は、太平洋側南部の陸上で20メートルです。

雨

31日夜遅くから9月1日朝にかけて、雷を伴って1時間に40ミリの激しい雨の降る所があり、大雨となる見込みです。31日06時から9月1日06時までに予想される雨量は、いずれも多い所で、太平洋側南部 200ミリです。

今後の台風の情報に留意し、農作物の管理には十分注意しましょう。



出典：「福島県農業気象情報システム ADVANCE」

【水 稲】

- (1) 強風及びフェーン現象時は、風による水分収奪に備えるため、入水状態を保つようにしましょう。
- (2) 浸水・冠水した場合は早急に排水を図り、少しでも早く穂先や葉先を出すよう努めましょう。
- (3) 浸水・冠水した水稲は、耐干性が低下しているため、水田を急に干すことを避け、排水後も田面を乾かさず間断かんがいにより根の健全化を図りましょう。
- (4) 倒伏した場合は、できるだけ早期に株起こしを実施しましょう。ただし、株元が損傷している場合には、隣接する株の上に穂をのせる程度としましょう。
- (5) 水田に土砂や流木等が流入した場合、株元にこれらの異物が付着し、機械収穫の妨げになるばかりでなく、穀粒に異物が混入する原因となります。異物をできるだけ除去するとともに、刈り分けを行うなど、収穫、乾燥、調製を慎重に行いましょう。

【大 豆】

- (1) 表面水や明きよの滞水は、早急にほ場外に排水しましょう。
- (2) 莢の損傷等を受けている場合は、降雨により紫斑病や腐敗粒の発生が多くなります。莢に損傷が多い場合は、薬剤散布を行い病害の発生を防止しましょう。

【そ ば】

地表面に水が停滞しているほ場では、溝切りなどの排水対策を行い、早急にほ場外に排水しましょう。

【野菜】

<共通対策>

1 事前対策

- (1)ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。
- (2)パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、異常がある場合は補修してください。
- (3)パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋かいを入れ、補強します。
- (4)パイプハウスは強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定します。
- (5)施設では、天窓や扉から風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。

2 事後対策

- (1)施設やほ場が湛水している場合は、排水溝（明きょ）や排水ポンプの活用等で早期に排水に努めましょう。
- (2)土壌水分が著しく多い場合は、畦や株元の土をむやみに動かさず、足を踏み入れて土壌の固結を招かないように注意しましょう。
- (3)土壌表面が固結しているほ場では、排水後ほ場に入ることが可能になったら、土壌表面を浅く中耕してください。
- (4)強風などで損傷を受けた果実は早急に摘果（莢）します。ネット等からはずれた茎葉等は、再度誘引し直しましょう。
- (5)茎葉に付いた汚泥が乾かないうちに水等で洗い流し、育苗ポット等についた汚泥の除去を早急に行いましょう。
- (6)強雨による土砂のはね上がり、茎葉の傷みは病害の発生を助長しやすいので、各品目に登録のある農薬（殺菌剤）を散布してください。
- (7)マルチを行っている畦が冠水、浸水した場合、マルチ下の土壌水分が過多となりやすいので、マルチを畦肩の部分までめくり上げたりする等して畦の乾燥を促します。
- (8)冠水、浸水の状況によっては、育苗中のものは流失や散乱したり、本圃では畦の崩壊等がおきやすいので、早急に育苗床の整備を行い（特にイチゴなど）、病害の発生を防止しましょう。崩壊した畦は、土上げ等を行って畦を作り直します。
- (9)天候回復後、草勢が低下した場合は、必要に応じて微量要素を含む葉面散布剤を散布します。
- (10)草勢低下が見られる場合は、果菜類など早めの収穫を行います。また、草勢の低下が著しい場合は、摘果（花）を行い草勢の回復を図りましょう。
- (11)葉根菜類で回復不可能な場合は、蒔き直すか他の品目に変えて栽培します。

<品目別対策>

(1)いちご（育苗床）

- 草勢が低下した場合、樹勢回復のため葉面散布剤を低い濃度で施用しましょう。
- ・葉面散布は泥水等で汚れた作物の洗浄を兼ねて実施してください。
 - ・対策は作物の回復状態を見て、何度か実施します。
- 冠水後は病害の防除を早急に行います。特に、親株床や育苗床が冠水した場合は炭そ病が多発する恐れがあるので、防除に努めましょう。
- ・泥水に冠水した場合は、泥水により茎葉が傷つきやすくなります。きれいな水で洗浄し、傷みが激しい茎葉を除去してください。
 - ・鉢間隔が密にならないようにして通風を良くしましょう。
 - ・草勢が低下している場合、薬剤により葉やけ等起こす場合があるので、最初の薬剤散布は使用濃度を薄めにして多めの散布量で行い、以後様子を見ながら3～5日毎に予防散布します。また、うどんこ病の予防も併せて行いましょう。
 - ・発病株の早期発見、早期除去に努め、適正に処分するとともに、本圃に持ち込まないように注意しましょう。

(2)ねぎ

湿害による根痛みを防ぐため、ほ場まわりに排水路を設けるなどして排水を図りましょう。台風通過後は、病害の予防のため、ほ場に入れる状態になったら薬剤防除を実施してください。

ほ場からの排水後、軽く畝間を中耕して根への酸素供給を行いましょう。

草勢回復のため、追肥を行います。葉先枯れがみられる場合は、湿害による根傷みで根からの吸収がうまくいっていない状態になっています。このような場合は、液肥の葉面散布を行いましょう。

(3)アスパラガス

施設栽培では、表面上のみでなく土壌中の水位を下げ、地下茎、根圏まで空気が通るようにハウス周囲に明渠を掘るなど工夫してください。

(4)さやいんげん

さやいんげんは湿害を受けやすいので、排水路を設けるなどして排水に務めます。

草勢が低下した場合、樹勢回復のため追肥、液肥の葉面散布を実施してください。

【果 樹】

1 事前対策

(1)現在、収穫期に入っている「幸水」では、強風による落果や傷害が懸念されます。一般に、収穫期後半の果実は果皮色に比べ成熟が進んでいるので、やや青目でも可能な限り果実を収穫しましょう。

(2)いちじくでは強風により結果枝が折損しないよう、誘引棚や誘引用のマイカ線に固定してください。

(3)果樹棚等の施設は、事前に点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行います。また、防風ネットや反射シートを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょう。

2 事後対策

(1)果実品質や樹勢低下、病害の発生を回避するため、浸水および滞水している園地では、明渠などによりできる限り速やかに排水してください。

(2)葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため殺菌剤を散布しますが、防除暦に従い、なしでは「幸水」収穫後にストロビードライフロアブル 3,000 倍（収穫前日）、いちじくでは収穫前にランマンフロアブル 2,000 倍（収穫前日）を散布してください。なお、被害直後ではなく、被害 1～2 日後に薬剤散布を実施しましょう。

(3)落果した果実は速やかに收拾し、適正に処理しましょう。

(4)台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるとともに湿度を維持し、被害を軽減するようにします。

【花 き】

1 事前対策

(1)ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。

(2)パイプハウスの被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、補修しましょう。また、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように、ハウスを閉めておきましょう。

(3)特に露地では、倒伏防止のため、フラワーネットや支柱を点検・補強しておきましょう。

(4)収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。

2 事後対策

(1)ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行って根傷みを防ぐとともに、付着した泥を洗い流し、薬剤散布を行いましょう。

(2)キクなどの露地花きでは、倒伏したものはできるだけ早く引き起こし、ネットのゆるみを直して茎曲がりによる品質低下を防ぎましょう。

また、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、傷んだ茎葉を除去し、直ちに適

切な薬剤散布を行いましょう。

(3)施設花きでは、台風通過後は天気が回復するため、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

【畜産・飼料作物】

1 事前対策

(1)強風による畜舎や堆肥舎等の損壊、及び畜舎等への風雨の吹き込みを防止するため、施設の補強を行いましょう。

(2)ほ場には明きょを掘削し、速やかに排水できるようにしておきましょう。

2 事後対策

(1)滞水しているほ場は、明きょなどを点検し速やかに排水しましょう。

(2)豪雨によりほ場で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

(3)畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、畜舎等の乾燥に努めましょう。